

英語・英語圏文化専攻教員紹介

2年ごとに行っている教員の自己紹介をお届けします。

氏名 専門 主な担当科目 出身地 趣味 好きな映画 好きな音楽 学生時代のクラブ(サークル)活動

子どもの頃の夢 学生へのメッセージ



北川宣子

英語教育法 英語音声学、英語ビジネスコミュニケーション、オフィス論 他 東京都 ガーデニング
陽のあたる教室 1960~70年代のポップ・ミュージック(特に The Carpenters の歌) テニス部 フラ
イトアテンダント 「成せば成る」何事もがんばれば必ずできると信じて進みましょう。



浦野洋司

聖書神学(旧約) キリスト教人間学、聖書英語研究 他 群馬県高崎市 音楽鑑賞 バイク 手作業
(工作、手芸) ドキュメンタリー映画 吹奏楽、クラシック(チャイコフスキー、ラフマニノフなど) 言論科
学研究会(弁論部にあらず) 世界の果てまで旅行すること 「今」に徹し、「明日」を信じ、人生のおどけた
部分に注目する。



伊藤知子

イギリス文学 英文講読、英米文学概論、英米文学史 他 兵庫県 映画鑑賞、ピアノ デブラウ
インガーを探して クラシック、洋楽 美術部(高校時代) 英会話サークル、フランス語会話サークル(大学
時代) 教員 思いやりを大切に。



パトリシア保田

英語教育学 Oral English、TOEIC[®]ワークショップ 他 英国(ランカシャー) スポーツ *Dead
Poets Society* Jupiter ホッケー部 ピーター・パンのようになりたかった。(大人になりたくなかった)
You will have many opportunities to use English at Caritas, it is up to you to take advantage of
this situation.



前田隆子

英語教育学 英文講読、児童英語教育研究、英語科教育法 他 東京都 ビーズアクセサリー作り
Before Sunrise アカペラ系(ゴスペラーズのファンクラブ会員です) 演劇部、体操部(高校時代)
小学生時代はアナウンサーか教師、中学生以降はずっと英語の教師を目指していました。 精神的な自
立を目指して、毎日を大切に過ごしましょう!



北脇実千代

アメリカ研究 TOEIC[®]ワークショップ、英文講読、英文法 他 鳥取県 読書、映画鑑賞 ニュー
シネマ・パラダイス ノラ・ジョーンズ、小野リサなど 吹奏楽部(高校時代) ピアノの先生 Where
there's a will, there's a way. まずは一歩からです!



ラフカディオ・ハーン

ラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn, 1850-1904)は、その日本名の小泉八雲で知られるように日本と縁の深い作家です。彼はアイルランド人の父とギリシャ人の母との間にギリシャのレフカダ島(Lefkada)で生まれました。2才の時に父母に伴われて、アイルランドのダブリン(Dublin)に移住しました。1869年に19才でアメリカに渡り、苦しい生活の中で文筆修行をします。24才の時に新聞記者になると、その文才は次第に評価を得るようになります。

1890年、39才の時に紀行文を書くために来日しましたが、まもなく、島根県松江尋常中学校及び松江師範学校の英語教師となりました。松江の風物と人情が気に入り、1891年には小泉セツと結婚し、武家屋敷に住みました。彼が住んだ家は現在、小泉八雲旧居として公開されています。ハーンはこの家の枯山水の庭が気に入り、座敷に座ってよく眺めていたそうです。この家については『知られざる日本の面影』(*Glimpses of Unfamiliar Japan*, 1894)にも描写されています。私が松江を訪れたのは今年の3月でした。旧居の居間に座り、庭の静かな佇まいを眺めていると、心が落ち着いていくのを感じました。隣接する小泉八雲記念館には、直筆原稿をはじめ、彼が使った机、椅子、望遠鏡などの遺品や関係資料が展示されています。



小泉八雲旧居(松江)

1891年には熊本市の第五高等学校へ移りました。熊本に赴任後、最初に住んだ家は、復元されて小泉八雲記念館として保存されています。私が熊本を訪れたのは1994年5月でした。更に1894年には神戸クロニクル社に就職して、神戸へ行きます。1896年には東京帝国大学の英文学講師となり、帰化して小泉八雲となりました。日本の伝統的精神や文化に興味を持った彼は、多くの著書によって日本を世界に紹介しました。1904年3月から早稲田大学の講師を勤めましたが、9月に狭心症により54才で亡くなりました。

東京の雑司ヶ谷墓地に埋葬されています。

ハーンは「耳なし芳一」(“The Story of Mimi-Nashi-Hoichi”)や「雪女」(“Yuki-Onna”)を含む『怪談』(*Kwaidan*, 1904)によって知られていますが、これは私にとっても思い出深い作品です。高校2年生の時の文化祭で「耳なし芳一」の8ミリ映画を製作した際に、私が芳一の役を演じたからです。長い年月を経てハーンの足跡を辿ることになったのは、やはりあの頃に種が蒔かれていたからかもしれません。

2005年度を振り返って - 新しい風への期待

英語・英語圏文化専攻 主任

北川 宣子

2005年度は、私たち 英語・英語圏文化専攻でにとって専攻のあり方と役割を見つめ直し、確認するよい年となりました。そこで確信できたその大きな役割とは、学生の“Stepping-stone to Success”「成功への橋渡し」となることでした。クラス・アドバイザーによる面談、進路決定のための個別相談、そして就職・進学・留学のそれぞれの進路を目指す学生のために開かれるガイダンスは、学生一人ひとりが自分の可能性を見出し、進むべき道を確認するための道しるべとなっています。そのサポートの一つといえるのが「留学支援システム」で、留学を夢見て入学した学生に在学中の留学の機会を提供したり、卒業後の留学先決定の手助けをします。同様に「ビジネス基礎講座」では就職のために、そして「英語特別講座」では進学を志す学生のためのサポートの役目を果たしています。カリタスをステップに大きく飛躍していく卒業生を見るのが、私たちの何よりの喜びです。

そして2005年度に起こった新しい風、それは英語演劇部「カリタス星組」の誕生です。夏休みから学生が自ら着々と準備を進め、10月のあざみ祭では「不思議の国のアリス」を見事に上演し、私たちを驚かせてくれました。台本を考える学生、衣装作りを担当する学生などそれぞれが各自の役目を果たし、そしてせりふや発音の指導は積極的にネイティブ・スピーカーの教員の指導を受け、その努力が大きく実ったのです。次年度は「ピーターパン」を上演するとか、今から楽しみです。

さて 2005 年度の最後を飾るともいえる出来事は何と言っても、私たちの提携校であるイギリスの Chichester College が留学生の積極的な受け入れとその指導に貢献したことでエリザベス女王より Queen's Award を受賞したことです。それだけではなく、その名誉ある授賞式に Buckingham Palace に招待された Chichester College の学長に同行した留学生の代表の一人が、カリタスから派遣奨学生として留学中の社会人の学生だったことです。いずれ詳しく Kaleidoscope で報告できると思います。

さて、2006 年度はどんな新しい風が英語・英語圏文化専攻に吹いてくれるのでしょうか。期待したいと思います。

先生が学生だった頃

このコーナーでは、カリタス女子短大の先生方がどのような学生時代を送ったのかを、学生によるインタビュー形式でお届けします。今回のゲストは、非常勤講師で「日本語表現」等をご担当の井筒満先生です。インタビューは、英語・英語圏文化専攻 2 年の細田麻涼佳さんです。



井筒 満 先生

Q-1: 先生は大学では何を専攻されたのですか？

A-1: 日本文学科で中世文学を専攻しました。本当は近現代文学のゼミを取りたかったのですが、学びたかった先生が中世文学の専門家だったので、そこで勉強しました。

Q-2: 学生時代に興味を持たれたことは何ですか？

A-2: もちろん文学です！ ゼミに参加することで、文学がますます面白くなってきました。高校生のときにも教科書で「方丈記」や「平家物語」などを読んではいいたのですが、どうも面白いとは思えなかった。ところが、このゼミで、先生の作品論を聞き、仲間たちと討論しているうちに印象がガラッと変わってきたんですね。作品の言葉・文章を通して、日本の中世社会を真剣に生きようとした人たちの様々な思いや訴えが、こちらの胸に突き刺さってきた。また、そういう思いや訴えが、現在を生きている僕たちの問題とつながっていること、中世文学が単なる過去の古臭い文学ではなく、現代の僕たちの生き方を照らし出してくれる鏡でもあるということがわかってきたんです。

ともかくゼミは面白かった。討論は授業時間だけでは終わらない場合もあります。そこで喫茶店に、さらに居酒屋へ行くなどということにもなる。大学の近くに美人姉妹がやっている沖縄料理の店があってそこにもたびたび行きました。先生もよく付き合ってくれて、そういう場で、大変貴重な話を聞くこともできたんです。授業時間だけではなく、こうした居酒屋ゼミでも本当に多くのことを学んだと思います。美人姉妹がいたなんてことはあくまで副次的な問題なので、細田さん、その点、誤解のないように僕の話しをまとめて下さいね。

Q-3: いつから先生になろうと思いましたか？

A-3: 高校時代に出会った国語の先生から強い影響を受け、文学の研究者及び教師を志しました。

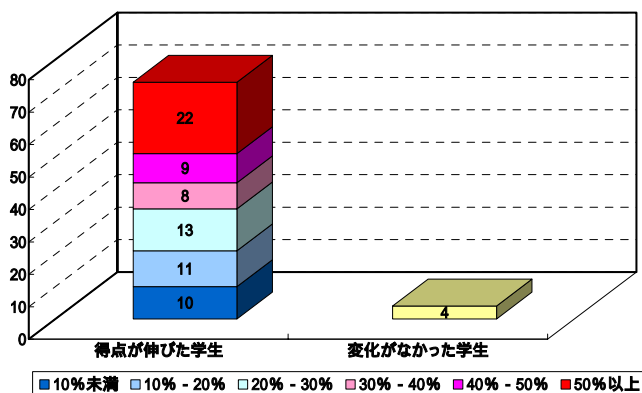
Q-4: 先生はとても面白い方ですが、学生時代からそうだったのですか？

A-4: その「面白い」というのは、喜んでいいことなんですかね。最近、四歳になった姪から「先生っていつも面白いね」としみじみとした調子で言われて、複雑な気持ちになったんですが……。まあ、それはともかく、同窓会などで旧友に会っても、「お前は昔から変わってないなあ」とよく言われます。今まで話してきたように、僕は、高校時代でも大学時代でも、大変魅力的な先生たちと出会うことができました。その先生たちに共通しているのは、囚われない自由な精神、型破りな「面白み」を持っていたということです。そういう先生たちとの出会いが、僕の性格に何か影響しているのかもしれませんが……。

Q-5: 最後に学生たちへメッセージをお願いします。

A-5: 月並みなメッセージになってしまいますが、本を読んでください。中でも昔から読み継がれている古典作品を読んで欲しいです。また、自分が面白いと思った作家がいたら、その人の作品をたくさん読む、できればその作家の全集を読んで欲しい。一人の作家と深く付き合くと、そこから世界がどんどん広がっていきます。「浅く広く」という言葉があるけれど、「浅い」とけって「広く」はならないと思います。本当は、「深く広く」です。これは、大学時代のゼミで実感したことであります。

TOEIC® 得点伸び率の割合(平成18年3月卒業生)



れしく思います。ちなみに今年の最高点は 820 点でした。この学生は、長期派遣奨学生として、在学中に1年間の海外留学生活を経験した学生ですが、カリタスで手にしたチャンスを十分に生かして、着実に自分の糧としているといえるでしょう。

1年生にとって、今回のテストは1年間の勉強の成果を把握する機会であり、2年生になってからの習熟度別クラスが決まる試験でもありました。今回思うように伸びなかったとしても、あきらめずに日々の勉強を続けていくことが大切です。これから就職活動も本格化しますが、まずは500点台を目指してもらいたいものです。短大の全国平均が300点台ということ考えると、そう簡単な目標ではないはずですが、もちろん、すでに500点に達している人は、さらによい点をねらいましょう。カリタスの先輩たちにつづくよう、頑張ってください。

サークルの輪

英語・英語圏文化専攻 教員

前田隆子

今年度より学内のサークルを紹介する新コーナーを設けました。第1回目は、「カリタス塚 星組 (英語演劇部)」を紹介します。インタビューに答えてくれたのは、英語・英語圏文化2年生の野口麗花さんと細田麻涼佳さんです。

「カリタス塚 星組」は、演劇好きの野口さん(部長)が、英語の勉強も兼ねて英語劇のサークルを作ったのが始まりです。昨年のおざみ祭で上演した *Alice in Wonderland* (『不思議の国のアリス』)は大変好評でしたが、苦勞した点は、せりふを英語で覚えることや発音、また演劇初心者が多かったので発声法や動きなども難しかったようです。良かった点として、お客様から拍手をいただき達成感を感じ、さらに英語力がついたと思うことだそうです。次回作は *Peter Pan!* です。違う自分を見つけたい人はどうぞこのサークルに入ってください!

Kaleidoscope 第21号はいかがでしたか? 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を maeda@caritas.ac.jp までお寄せください。

2006年4月10日発行

発行責任者: 北川宣子

編集協力: 東京工科大学

コンピュータサイエンス学部 堀 竜太郎

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>